

部会長，副部会長ご挨拶

部会長就任にあたって

部会長 宮越 順二



このたび、第27期放射線安全取扱部会の部会長に就任いたしました。今期は部会にとって大きな変革の年です。部会は、これまでの52年間、主任者部会として活動を行ってきました。

この4月から日本アイソトープ協会が公益法人化され、協会の制度改革に伴い、部会の名称を新たにスタートすることとなりました。新しい部会規定では、部会の目的は、アイソトープ・放射線に関する公共の安全・安心の確保に寄与することです。これらの安全取扱、管理について知識の普及と技術の向上を図ること、また、放射線障害防止に指導的役割を果たしている放射線取扱主任者の育成と地位向上に努めることです。新たな気持ちでこの目的の遂行に努力する所存です。さらに、今期から本格的な部会評価が行われます。部会活動の公益性、学術的意義、公開性などが評価対象です。

折しも、昨年3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故以来、多くの国民が“放射線”という言葉に釘付けとなり、今でもマスコミからは放射線に関する報道がない日はありません。私は学生時代から放射線に携わって40年を過ぎましたが、我が国がこのような状況を迎えるとは想像を超えるものでした。部会員の多くは放射線管理に携わっており、既

に福島県での放射線測定などで、少なからず貢献をされております。福島第一原発の問題は今後長期にわたって解決してゆかねばなりません。部会としては、前述の目的を果たすべく、放射線の専門家として寄与できることを考えていきます。

私は、これまで主任者部会の法令検討委員長、企画委員長を務めてきました。これらの経験を生かして部会長の職務を進めてまいります。ここ数年、新たな危機管理が叫ばれてきており、部会としては、危機管理に対する主任者の役割を再認識するための議論を継続していきたいと考えています。また、企画委員会の主要テーマの1つとして、教育訓練の向上を進めており、これも継続して、更に発展させたいと考えています。昨年からは、マスコミの放射線報道などに関して、特に放射線教育の不足と重要性を強く感じております。この5月に岡山市で小学・中学・高等学校の先生を対象として、中国・四国支部が中心となり、広島県や岡山県の教育委員会のご協力と日本アイソトープ協会の主催を得て、学習指導での放射線教育を実施しました。大変好評であり、今後、全国の支部レベルでの実施を考えていきたいと思っております。本務に支障を来してはなりません、公益活動にご理解を賜り、全国の支部委員や部会員の方々には、この場を借りてご協力をお願い申し上げます。このことについては、広域にわたる支部もあり、支部委員の増員も必要と考えています。

末筆ながら、今期は、副部会長として、松田尚樹氏（長崎大学）と上蓑義朋氏（理化学研究

所)にそれぞれ企画, 広報を担当いただき, 新たな本部運営委員の方々と共に, 部会の発展に寄与する所存です。皆様のご協力とご支援を賜りますよう, 重ねてお願い申し上げます。

(京都大学生存圏研究所)

副部会長就任のご挨拶

副部会長 松田 尚樹



第27期も前期に引き続き副部会長を仰せつかりましたが, 今期は4年間お世話になった広報委員会から, 企画委員会に移籍いたしました。これからも部会長の宮越先生を支えて, 公益法人化に伴い放射線安全取扱部会として生まれ変わった部会の活動を, 真に生まれ変えさせるよう微力を尽くしたく存じます。

昨期は, 法改正, 施行, そして福島第一原子力発電所事故など, 放射線安全に係わる部会史上まれに見る激動の2年間でした。その2年で完結したことなど何もなく, 改正法の施行に伴う運用上の種々の問題の解決と国民的放射線クライシスへの継続的対応は, 今期にすべて受け継がれております。そのような状況の中で, 放射線のプロフェッショナル集団として公益性を生み出す企画とは, 活動とは何か, まずは原点に帰って考えてみることから始めたいと思っております。2年間, どうぞよろしく願い申し上げます。

(長崎大学先端生命科学支援センター)

副部会長に就任して

副部会長 上菘 義朋



第27期の副部会長と, 松田尚樹委員長の後を継いで広報委員長を拝命することになりました。主任者部会とはしばらく離れていたのですが, 第26期から広報委員をさせていただいた後, 今期からいきなり重責を担うことになり, 多少戸惑っております。

日本アイソトープ協会が公益法人化するとともに, 主任者部会も“放射線安全取扱部会”と名前を変え, “主任者の地位向上のみならず, 放射線障害の防止と公共の安全, 安心の確保に寄与する活動を行う”と宣言しています。とはいえ, 全国の放射線取扱主任者を横で結ぶ組織はほかになく, 今後も職能団体としての部会であってよいと思っています。そのため, 広報委員会が編集している“主任者コーナー”の名前は変えていません。

福島第一原子力発電所の事故までは, JCO事故を除き, 放射線施設が敷地外の住民に実質的な被害を及ぼすということはありませんでした。そういう意味で, 今までの主任者は, 事業所内だけに目を向けていれば十分だったように思います。しかし事故後は, 一般の方が真剣に放射線の心配をしなければならなくなりました。このような状況において, 主任者は, 身近にいる放射線の専門家として, “公共の安全, 安心”に寄与できる, 頼られる存在であってよいと思います。内的要因で部会名が変わりましたが, 外的要因も変化を求めていると言えます。

30年近い前にも主任者部会に加わらせてい

主任者 コーナー

ただき、主任者試験問題の解答作りなどに励んだことを思い出します。しかし当時は、“問題が不適當”などと、外に向かって文句を言うことしか頭になく、それで世の中がよくなると思っていました。しかしいろいろなことに関わって来てみると、規制当局と私たちとの関係にしても、互いに信頼し、補いあうことでしか事態を改善できそうもないことが分かってきまし

た。そんなことは、多くの方には以前から分かっていたのでしょうが、私自身としては、今後常に念頭に置いていたいと思います。信頼関係が実現できれば、主任者の地位も自然と向上してくるのではないかと期待しています。

取りとめのない内容で大風呂敷を広げてしまいましたが、ご挨拶とさせていただきます。

((独)理化学研究所仁科加速器研究センター)

ICRP Publ.101

公衆の防護を目的とした代表的個人の線量評価 放射線防護の最適化：プロセスの拡大

翻訳・発行 日本アイソトープ協会 【2010年1月発売】
B5判・97頁 定価 4,305円 会員割引価格 3,885円（消費税込）

公衆の放射線防護について、2007年新勧告の基盤となった考え方を示す2部編成の報告書。

Part 1では、公衆の線量という測定しがたいものをいかに推定するか、その考え方を解説。公衆の防護を具体的に達成するために必要な目安として、線量拘束値の遵守の判断に適用できる“代表的個人”を定義し、この個人の年間線量を評価するプロセスと多様な方法について説明しています。Part 2では、放射線防護の最適化に関する従来の諸勧告を統合し、今後に向けて展開。2007年新勧告で“いかなる被ばく状況にも適用されるべき”とされた最適化について、プロセス成功の基本要件を、現代社会の動向にも配慮した観点から具体的に示しています。

放射線防護の実務を担う、あらゆる立場の方に必読の書です！



公益社団法人

日本アイソトープ協会

Japan Radioisotope Association

〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45
TEL (03) 5395-8082 FAX (03) 5395-8053

◆ご注文はインターネットまたはFAXにてお願いいたします。

JRIA Book Shop : <http://www.bookpark.ne.jp/jria>

BookPark サービス : FAX (03) 5227-2060

◆書店でご注文の際は「発売所 丸善出版」とお申し付け下さい。